

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2016.11.30

No.442



平成 28 年冬のボーナス調査

レポートの概要

平成 28 年冬のボーナス受給見込額は、平均で 37 万 9 千円となり、昨年冬の受給実績を 8 千円上回った。一方、ボーナス希望額は平均で 51 万円となった。なお、今冬のボーナスの伸び(見込み)は期待指数が昨年冬に比べ 0.2 ポイント低下したが、ほぼ横ばい圏内であり全体的に改善傾向が続いている。

ボーナスの使途計画は、「消費」が 38.0%、「貯蓄」が 47.5%、「返済」が 14.5%の割合となり、昨年冬に比べ「消費、返済」が低下、「貯蓄」が上昇した。「貯蓄」の目的については、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合がトップとなり、「老後の備え」、「教育」と続いた。昨年冬に比べ「旅行」、「住宅」の減少が目立った。

最近の暮らし向き調査では、暮らし向き指数が 28 年夏に比べて 0.9 ポイント上昇した。「良くなった」とする割合が 0.7 ポイント増加し、「悪くなった」とする割合は 1.1 ポイント減少した。暮らし向きについては緩やかではあるが改善が続いている状況がうかがわれる。

県内給与所得者の小遣いの平均額は、毎月が約 3 万 7,300 円、ボーナス時は約 6 万 2,000 円となった。最も小遣いが多かったのは毎月が 20 代女性、ボーナス時は 20 代男性であった。

この冬の御歳暮は、贈る「予定あり」が全体の 26.5%となった。平均贈答先数は 5.1 先、1 先当たりの平均金額は 4,857 円、御歳暮予算合計額は約 2 万 4,145 円となった。昨年冬に比べ、贈答先数、平均金額、予算額がそれぞれ増加した。

1. 平成28年冬のボーナス調査

(1) ボーナス受給見込額

平均37万9千円、昨年冬を8千円上回る

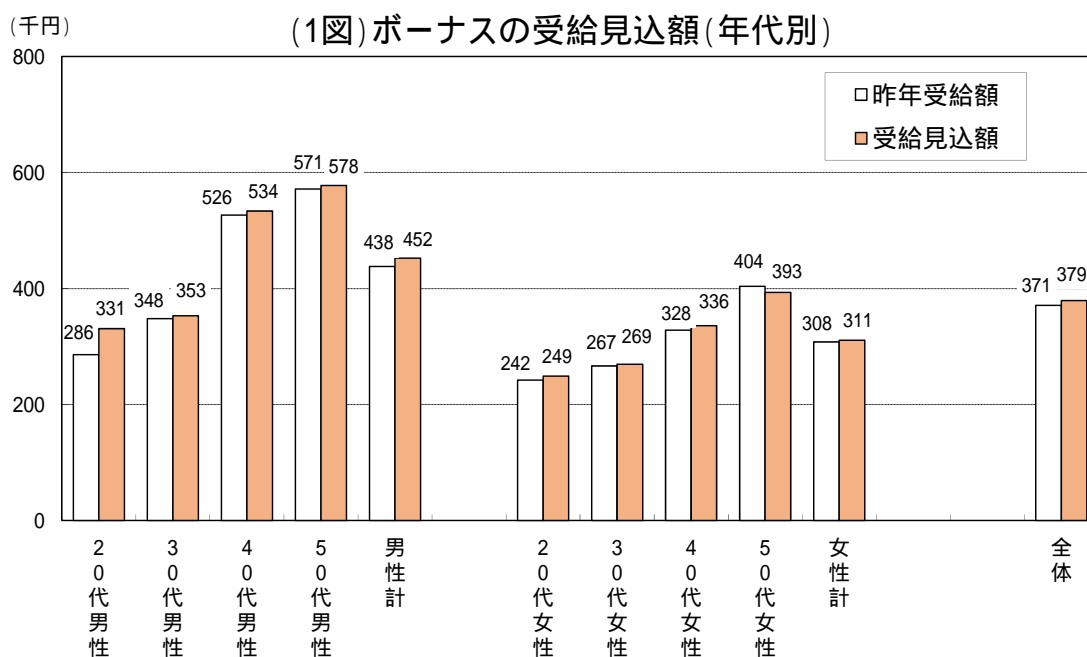
県内給与所得者が予想する今冬のボーナス受給見込額は、平均で37万9千円となり、回答者の昨年冬の受給実績(平均37万1千円)を8千円上回った。これを年代別・男女別にみると、最も見込額が大きかったのは50代(50代以上を含む、以下同じ)男性の57万8千円、次いで40代男性の53万4千円、50代女性の39万3千円、30代男性の35万3千円などの順となった。また、20代(20代以下を含む、以下同じ)女性、30代女性は30万円を下回った。

男女別の平均見込額を比較すると、男性

が45万2千円、女性は31万1千円となり、男性が女性を14万1千円上回った。また、各年代とも男性が女性を上回った。

年代別に今冬の見込額と昨年冬の受給実績額との開きをみると、男性は全ての年代で、女性は50代以外の年代で昨年冬の受給額を上回った。見込額は20代男性が4万5千円上回り、他の年代に比べ開きが大きかった。一方、50代女性は見込額が1万1千円下回った。

(以上、1図参照)



受給見込額を独身・既婚別にみると、独身者が33万円、既婚者が41万3千円となった。昨年冬の受給実績に比べ独身者が1万5千円、

既婚者は3千円それぞれ上回った。

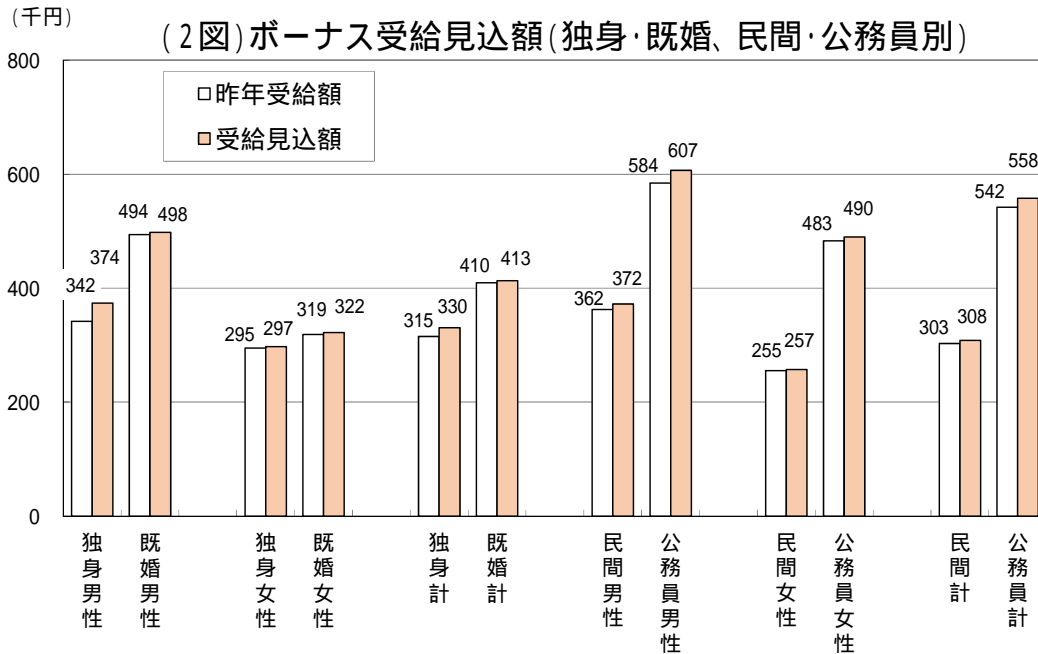
また、民間・公務員別では、民間が30万8千円、公務員が55万円8千円となった。昨年冬の

受給実績額に比べ民間が 5 千円、公務員は 1 万 6 千円それぞれ上回った。

全体的に上昇傾向がみられる。

(以上、2 図参照)

今冬のボーナス受給見込額は、ほとんどの属性で昨年冬の受給実績額を上回っており、



(2) ボーナスの希望額

ボーナス希望額は平均 51 万円

今冬のボーナス希望額は平均で 51 万円となり、平均受給見込額 37 万 9 千円との間に 13 万 1 千円の開きがみられた。男女別の平均希望額を比較すると、男性が 59 万 9 千円、女性は 42 万 7 千円となり、男性が女性を 17 万 2 千円上回った。

年代別・男女別の平均希望額をみると、50 代男性が 71 万 6 千円でトップとなり、以下、40 代男性の 71 万 3 千円、50 代女性の 53 万円などと続いた。

希望額と受給見込額との開きを年代別に

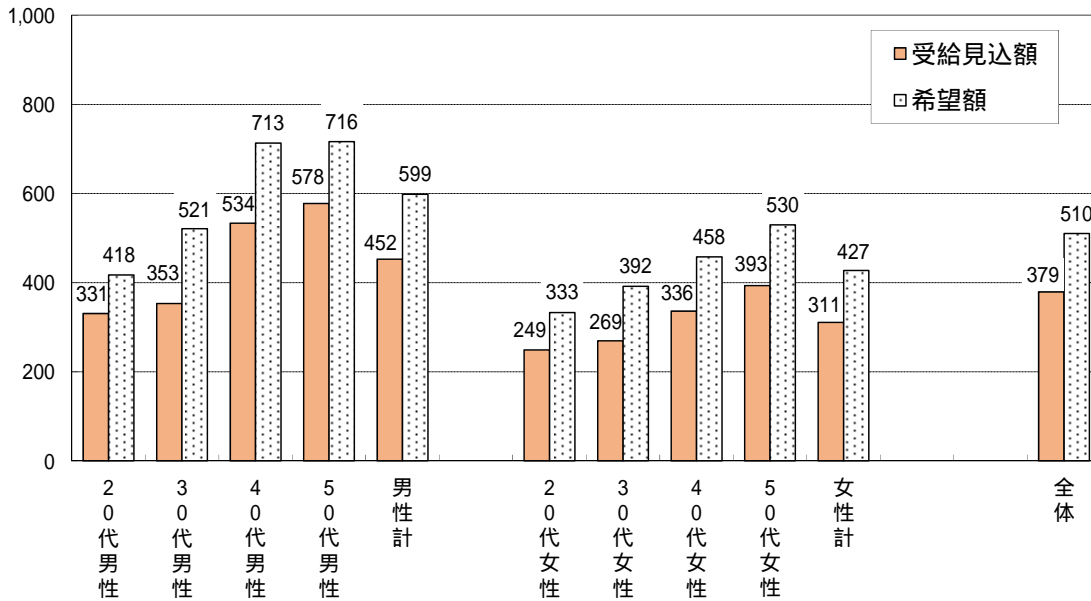
みると、40 代男性が 17 万 9 千円で最も大きく、20 代は男女とも 9 万円未満であった。

独身・既婚別にみると、既婚者は独身者に比べ開きが大きかった。また、民間・公務員別では民間が公務員に比べ開きが大きかった。

(以上、3、4 図参照)

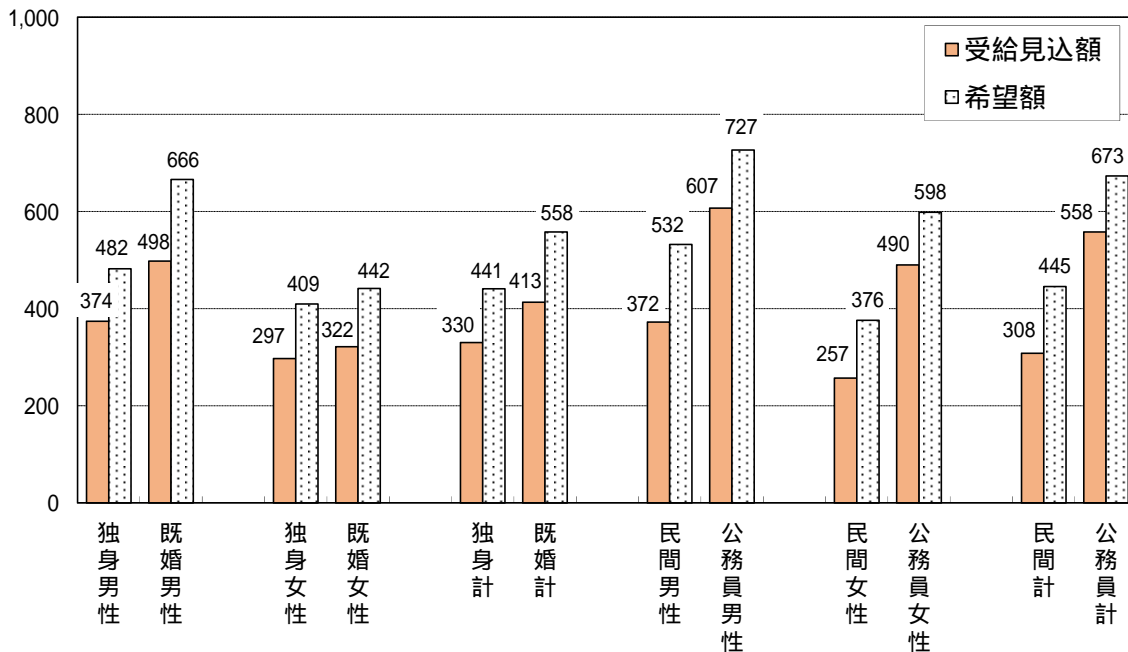
(千円)

(3図) ボーナス希望額(男女別・年代別)



(千円)

(4図) ボーナス希望額(独身・既婚別、民間・公務員別)



(3) ボーナスの伸びについて

期待指数ほぼ横ばいの51.0、全体的に改善傾向が続く

今冬のボーナスの伸びは前年同期に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「悪くなる」、「変わらない」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くな

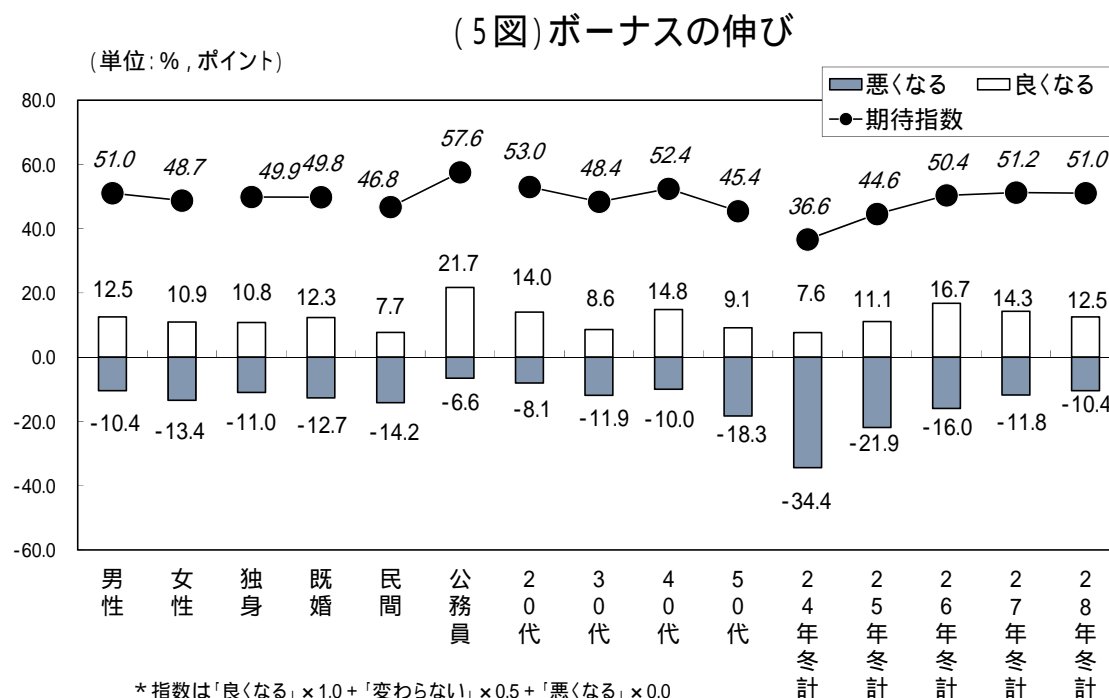
る」との回答は、27年冬に比べ1.8ポイント減少の12.5%、「悪くなる」が同1.4ポイント減少の10.4%、「変わらない」は同3.2ポイント増加の77.1%となった。この結果、ボー

ボーナスの伸びに対する期待指数(5 図、注記参照)は、昨年冬に比べて 0.2 ポイント低下の 51.0 となった。

年代・属性別にみると、男性、公務員、20 代、40 代で「良くなる」割合が「悪くなる」を上回った。期待指数が高かったのは、公務員(57.6)、20 代(53.0)、40 代(52.4)であった。

今冬の期待指数は幾分低下したものの、ほぼ横ばい圏内である。「悪くなる」割合は減少傾向にあり、ボーナスの伸びについては全体的に改善傾向が続いているものとみられる。

(以上、5 図参照)



(4) ボーナスの使途計画

消費割合が低下、貯蓄割合は上昇

今冬のボーナスの使途計画は、「消費」が 38.0%、「貯蓄」が 47.5%、「返済」が 14.5%の割合となった。昨年冬と比べると、「消費」割合が 2.1 ポイント低下、「貯蓄」割合が 2.7 ポイント上昇、「返済」割合が 0.6 ポイント低下した。

男女別にみると、男性は「返済」割合、女

性は「貯蓄」割合が高かった。独身・既婚別では、独身者は「消費」、「貯蓄」割合、既婚者は「返済」割合が高かった。民間・公務員別では、民間は「消費」、「貯蓄」割合が高く、公務員は「返済」割合が高かった。

(以上、1 表参照)

(1表) ボーナスの使途計画

(単位:%)

	消費割合					貯蓄割合	返済割合	返済割合		
	買い物	レジャー	交際費	その他	自動車			住宅	その他	
男性	37.6	17.6	7.1	7.2	5.7	45.4	17.0	4.9	9.2	2.9
女性	38.4	18.8	6.3	6.4	6.9	49.5	12.1	4.1	4.1	3.9
独身者	41.5	20.8	7.4	7.7	5.6	48.8	9.7	4.9	1.9	2.9
既婚者	35.6	16.4	6.2	6.1	6.9	46.5	17.9	4.2	10.0	3.7
民間	39.3	19.6	6.6	7.2	5.9	48.3	12.4	4.2	5.3	2.9
公務員	35.3	14.8	7.0	5.6	7.9	45.2	19.5	5.2	9.7	4.6
28年冬計	38.0	18.2	6.7	6.8	6.3	47.5	14.5	4.5	6.6	3.4
27年冬計	40.1	18.4	6.8	6.3	8.6	44.8	15.1	4.5	6.2	4.4
26年冬計	39.7	17.4	6.8	6.3	9.2	45.7	14.6	3.8	6.2	4.6

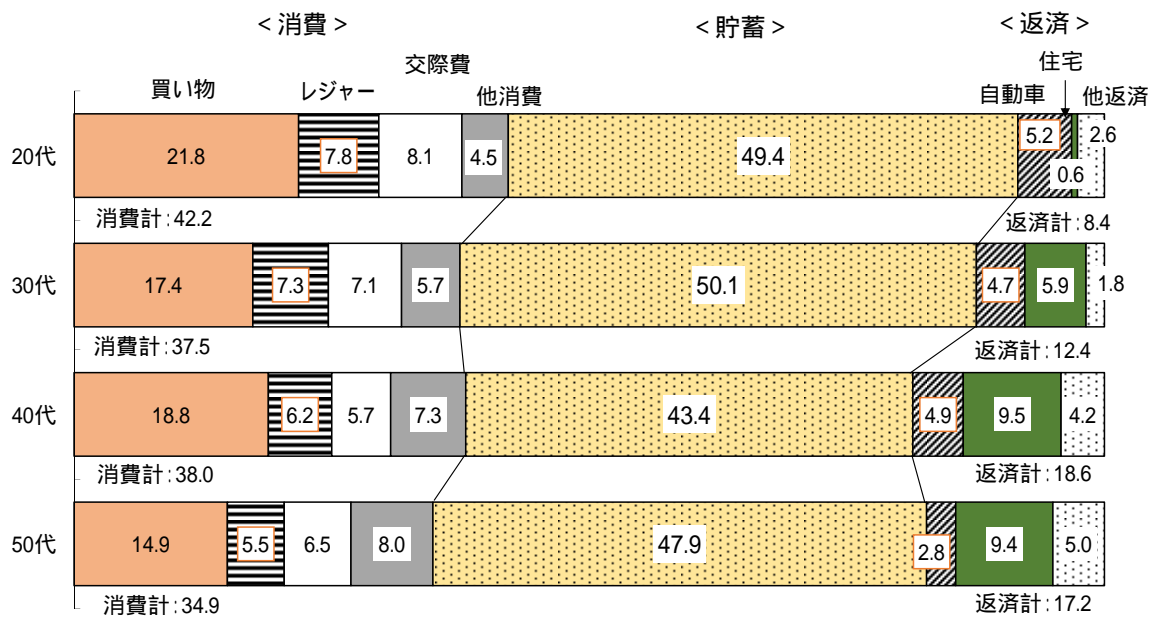
年代別にみると、「消費」割合は20代が42.2%と最も高く、買い物、レジャー、交際費の割合の高さが目立った。「貯蓄」割合は20代、30代が高い割合となった。「返済」

割合は40代が18.6%で最も高く、住宅ローンの割合は40代、50代が高かった。

(以上、6図参照)

(6図) 年代別ボーナスの使途計画

(単位:%)



(5) 貯蓄の目的

「特に目的はない、安心だから」がトップ、「老後の備え」、「教育」と続く

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が39.7%で最も高く、以下「老後の備え」が34.8%、「教育」が27.1%などと続いた。

昨年冬との比較では「旅行」(3.4ポイント減)、「住宅」(3.4ポイント減)の低下が目立った。

男女別にみると、男性は「安心だから」、「住宅」、「耐久消費財」の割合が女性に比べ高く、女性は「旅行」(22.6%)が男性を8.2ポイント上回った。

独身・既婚別にみると、独身者はトップが

「安心だから」(54.5%)で既婚者に比べ25.4ポイント高く、次いで「老後の備え」、「旅行」、「結婚」と続いた。独身者は昨年冬に比べ「旅行」の割合(28.0% 20.7%)が7.3ポイント減少、「結婚」割合(20.5% 15.0%)5.5ポイント減少した。一方、既婚者は「教育」(43.3%)がトップとなり、「老後の備え」(39.2%)は「安心だから」を上回った。

(以上、2表参照)

(2表)貯蓄の目的

(単位:%)

	男性	女性	独身	既婚	28年冬計	27年冬計	26年冬計
住宅	10.6	6.8	4.1	11.9	8.7	12.1	11.0
教育	(3) 27.9	(3) 26.2	4.5	(1) 43.3	(3) 27.1	(3) 27.8	(3) 28.4
結婚	6.0	8.7	15.0	1.8	7.3	8.4	8.4
旅行	14.4	22.6	(3) 20.7	17.0	18.5	21.9	20.1
耐久性消費財	13.6	9.7	10.8	12.2	11.6	10.5	11.4
病気の備え	11.4	11.0	11.5	11.0	11.2	12.3	14.1
老後の備え	(2) 34.7	(2) 34.9	(2) 28.7	(2) 39.2	(2) 34.8	(2) 36.8	(2) 31.2
安心だから	(1) 41.2	(1) 38.3	(1) 54.5	(3) 29.1	(1) 39.7	(1) 39.6	(1) 43.6

2. 最近の暮らし向き調査

暮らし向きは緩やかながら改善が続く

まず、「昨年の今頃に比べて最近の暮らし向きはいかがですか」との問いに対しては、「良くなった」とする回答は28年夏に比べ0.7ポイント増加の6.4%、一方、「悪くなった」は1.1ポイント減少の13.6%、「変わらない」は0.4ポイント増加の80.0%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」(3表、注記参照)は46.4と、28年夏に比べ0.9ポイント上昇した。

暮らし向き指数は24年夏以降、10期(半期毎)連続で40.0を超え、今回は過去10年間で最も高い水準となった。また、「悪くなった」とする割合は4期連続で減少しており、緩やかではあるが暮らし向きの改善が続いている状況がうかがわれる。

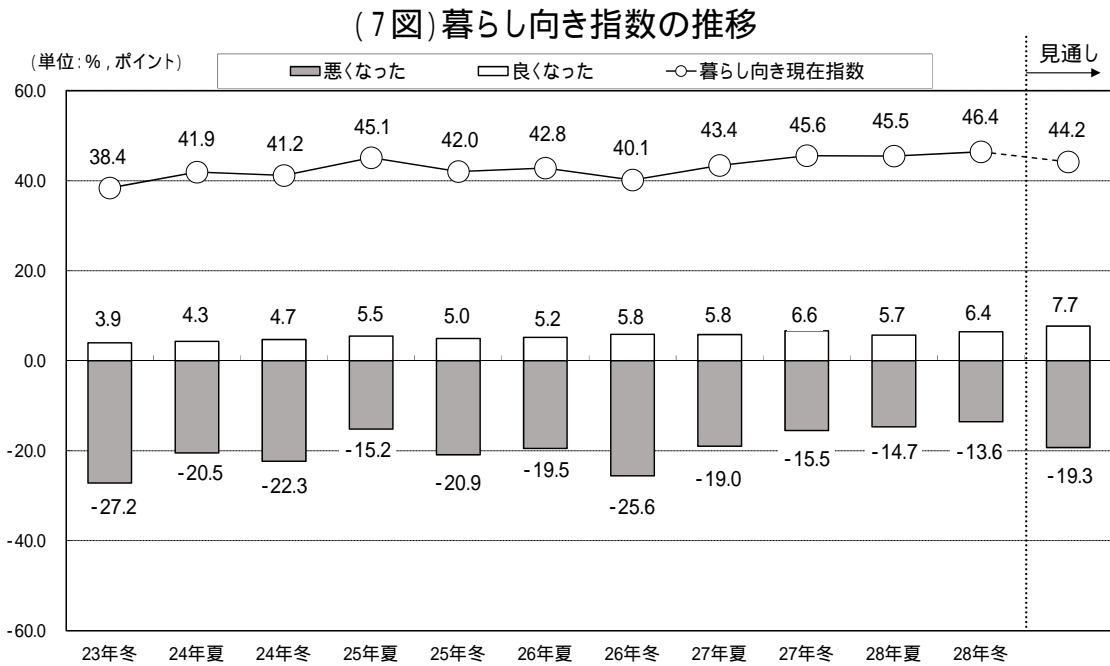
年代別、属性別にみると、20代は「良くなった」とする割合が「悪くなった」を4.1ポイント上回った。他の属性では「悪くなった」が

「良くなった」を上回ったものの、各属性とも「悪くなった」とする割合はこのところ減少傾向が続いている。

次に「1年後の暮らし向きはどうなると考えますか」との問いに対しては、「良くなる」の割合が1.3ポイント増加の7.7%、「悪くな

る」は5.7ポイント増加の19.3%となった。この結果、「今後の暮らし向き指数」は44.2となり、「現在の暮らし向き指数」を2.2ポイント下回った。

(以上、7図、3表参照)



(3表) 現在の暮らし向きについての見方(属性)

(単位: %, ポイント)

	現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後	
	良くなった	良くなる	変わらない	変わらない	悪くなった	悪くなる	指数	指数
男性	6.8	7.9	79.7	75.3	13.5	16.9	46.6	45.5
女性	6.1	7.5	80.3	70.9	13.6	21.5	46.2	43.0
独身	7.0	9.3	81.3	77.5	11.7	13.2	47.7	48.1
既婚	6.0	6.5	79.1	69.9	14.9	23.6	45.6	41.5
民間	6.3	8.4	79.0	70.6	14.7	21.1	45.8	43.6
公務員	6.7	6.0	82.5	79.1	10.8	14.9	47.9	45.5
20代	11.2	13.8	81.6	76.5	7.1	9.7	52.0	52.0
30代	8.8	8.0	79.7	76.5	11.6	15.5	48.6	46.2
40代	4.0	6.9	80.4	71.7	15.6	21.4	44.2	42.8
50代	2.3	2.8	78.4	67.3	19.2	29.9	41.5	36.4
全体	6.4	7.7	80.0	73.0	13.6	19.3	46.4	44.2

注) 現在指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0

今後指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0

3. 県内給与所得者の小遣いについて

毎月が20代女性、ボーナス時は20代男性がトップ

ボーナス調査に併せて、給与所得者の小遣いについても調査した。全体では毎月の平均小遣い額は約3万7,300円、ボーナス時は約6万2,000円となった。男女別にみると、男性は毎月の平均額が約4万600円、ボーナス時は約6万8,900円、女性は毎月が約3万4,100円、ボーナス時が約5万4,800円となった。

次に男女・年代別に小遣いの額を見ると、毎月の小遣いをもっとも多いのは20代女

性の約4万5,900円、逆に最も少ないのは40代女性の約2万6,700円であった。ボーナス時では最も多いのが20代男性の約9万3,200円、最も少ないのは40代女性の4万5,000円であった。

毎月の小遣いは20代、30代で女性が男性を上回った。ボーナス時は全ての年代で男性が女性を上回った。

(以上、4表参照)

(4表) 小遣いの額

(単位:円)

	男 性		女 性		総 計	
	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時
20代	44,157	93,169	45,906	74,048	45,011	84,564
30代	36,128	62,125	36,380	54,293	36,253	58,160
40代	40,539	61,772	26,678	45,000	32,449	52,240
50代	42,313	58,816	31,549	51,731	37,763	55,938
年代計	40,636	68,891	34,050	54,774	37,319	61,959

4. この冬の御歳暮事情について

「予定あり」が26.5%、贈答先数は5.1先、平均金額は4,857円

この冬、御歳暮を贈る予定については、全体の26.5%が「予定あり」としており、昨年冬(32.2%)に比べ5.7ポイント低下した。

属性別にみると、独身・既婚別では、「予定あり」が独身者は9.9%、既婚者は38.1%となった。「予定あり」を年代別にみると、20代は5.7%であるが、年代が進むにつれて割合が増加し、50代では52.3%となった。

次に「予定あり」の回答者に贈答先数と1先当たりの平均金額を尋ねたところ、平均先数が5.1先、1先当たりの平均金額が4,857円となり、御歳暮予算合計額は2万4,145円となった。昨年冬の調査と比べると、

贈答先数(昨年冬4.5先)が0.6先増加、平均金額(同4,754円)は103円増加、予算額(同2万638円)は3,507円増加となった。

属性別にみると、独身・既婚別では、先数、平均金額とも既婚者が独身者を上回った。また、年代別でみると、先数は40代、50代が多く、予算額は、平均金額50代が最も高かった。

(以上、5表、6表参照)

(5表) 御歳暮の予定

(単位: %)

	予定あり	予定なし
独身	9.9	90.1
既婚	38.1	61.9
20代	5.7	94.3
30代	17.1	82.9
40代	29.7	70.3
50代	52.3	47.7
全体	26.5	73.5

(6表) 御歳暮の先数と予算

(単位: 先、円)

	贈答先数	平均金額	御歳暮予算
独身	3.8	4,784	18,081
既婚	5.3	4,871	25,239
20代	2.5	3,583	7,667
30代	3.9	4,537	17,122
40代	5.5	4,294	22,038
50代	5.5	5,532	30,147
全体	5.1	4,857	24,145

(注) 回答項目をそれぞれ単純平均

以上

調査要領

調査対象者

県内在住の男女給与所得者

調査時期

平成28年11月上旬

配布・回収枚数

配布枚数 1,000枚

回収枚数 943枚 (回収率 94.3%)

回答者内訳

(単位: 人)

属性	男性	女性	合計
20代	94	102	196
30代	121	133	254
40代	113	165	278
50代	118	97	215
独身	165	224	389
既婚	281	273	554
民間企業	293	382	675
公務員	153	115	268
合計	446	497	943

注: 20代は20歳未満、50代は60歳以上を含む

【 本件に関する照会先 】

一般財団法人 青森地域社会研究所
主任研究員 野里和廣

TEL 017-777-1511